

新年あけましておめでとうございます。みなさま始め、ご家族や大切なお仲間、そして被災地・日本・世界の人々にとりまして、新しい年のSDGs実現を目指した取り組みが希望をもたらすものになりますように！
 本年も、センスオブアースのニュースや環境学習の普及へご支援、ご助言をよろしくお願い申し上げます。

板橋第七小産 とうふを作ろう

SOE NEWS

No.201

2024年
1月



センスオブアース
市民による自然共生
パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体



豆乳の温度を測る子の素敵な手つきと見守る友人の真剣ささらにそれを見守るお母さんたちの温かいまなざし…3の1



「やっと固まった〜」出来上がったとうふをお椀に入れるのを、みんなじっと見る…3の2

板橋区立板橋第七小学校
3年1・2組49人
11月14・16日

☑ミキサーやタイマーや温度計がおもしろかった ☺ね

じったり、もみもみしていると泡が出てくるのがおもしろい ☺こんなに作る

のが大変なんだな ☹苦みが少しある甘い食感 ♡うちより豆腐の味が濃かった ☑少しクリーミーな味がした。おたまで泡を取るところがおもしろい

☺重しを取る時ワクワクして一番面白かった ☺スーパーで売ってるよりおいしかった ☑ママがこのとうふを作ってほしい ☺大豆は枝豆にもなるし、みそにもなるんだなとびっくりした

(次ページへ続く)



「半分固まったとうふをざるにあけるよ。さらしをひるげて、水の重しを用意するよ」とお母さんの応援の声…3の1



「このプニョプニョしている豆乳を絞るのが楽しくって」係分担を越えて、どっからでも手が出るわ出るわ…3の2

令和5年度板橋区青少年表彰

東京家政大学人文学部教育福祉学科 宮地孝宜ゼミの学生たちが、板橋区教育委員会による青少年表彰で、12月3日、板橋区より表彰されました。



代表4年 大野由梨香さん(中)
SOE寺田(左)-家政大 宮地孝宜准教授(右)

10年間、毎年度の大学3・4年生が、センスオブ



坂本区長より表彰状を受け取る大野さん(右)

アースのプログラム作りや紙芝居作り、小中学校・保育園などの出張授業に、ボランティアで地道に参加され、

そのうち5年間は表彰対象となったものです。(推薦人 SOE)

大豆は厚揚げや油揚げになっていること、2000年の大豆の文化があることがわかった 本当のとうふの味がしておいしかったけど、四角いとうふが作れなかった。でもうまく作れてよかった 初めてのみんなで豆腐を作ったので、楽しかった。自分ですぐ作りたくなっちゃうくらい楽しかった 絞るところで豆乳が出て、どんだけ水分があるんだと思った 家の人に、お豆腐を家でもう一回作ってみたいとか、おいしいとうふができたよとか話したい 自分で味噌汁を作りたい 日本で大豆を作っているのが6%しかないことを初めて知った



半分固まってきたとうふをざるに入れて水抜きしようもうすぐ出来上がり、はやく食べたい!!!



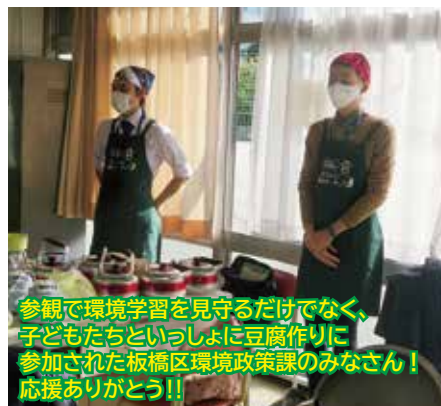
豆乳を絞って、おからと豆乳に分けるのは大変だけれどもおもしろい!

板橋区環境政策課の方々の感想 - 参観+ボランティアで参加していただきました

子どもたち・保護者が素晴らしかった事～

先生の質問に対し、積極的に手をあげ、気づいたことを発言できていた。大豆という身近な食材の自給率が少ない現状や、長距離輸送に、CO₂を多く排出している問題をしっかり理解できていた。実習前に、大豆に関する知識をクイズを交えながらわかりやすく伝えており、関心を持てる内容だった。参加者にとっても、自身の生活を振り返られる内容だと感じた。保護者も参加しながら、各班とも協力しつつ生き生きと活動できていた。児童同士の役割分担もできていた。「なぜ大豆は日本でもっと育てないのか」という疑問を共有し、興味・関心につなげていた。児童の保護者が一緒に参加している協力体制に驚いた。大人も楽しく学べて、ためになるプログラムなので、とても効果的だと感じた。調理の工程で様々な発見(におい・手触り・形状の変化)をしながら、夢中で取り組んでいたのが印象的だった。大豆を自らの手で豆腐にする体験は、大人になってもそうできないものなので、とても貴重で有益な機会だと思った。

多くの子どもたちが目を輝かせながら、積極的な姿勢で取り組んでいた。また、保護者の方々は子どもたちのサポートを行い、楽しみながら取り組んでおりチームとしての一体感があつた。身近な素材である「大豆」を材料にしたことで、環境問題をより近くで感じることができ、クイズ形式や解説の相乗効果を取り入れることでさらに理解が深まっていた。モニターを使用しての解説やクイズ、イラストを用いた工程の説明がとても効果的だった。一見、むずかしそうな工程も、イラストがあることにより、作業のイメージが想像できてやりやすかった。大豆は身近な食材でありながらも日本で作られるのは6%ということ、さらには外国から輸入するにあたりたくさんのCO₂の排出がある事実を真にうけて、より自分事として認識できたのではないかと感じた。率直な感想として、とても楽しい時間だった。私自身が小学生の時は、ただやらされている感じが記憶の片隅にあつた。参加者のワクワクした空気感や、やる気に満ちた表情、一生懸命な姿勢が相まって、一体感のあるとても素晴らしい授業だった。私自身が受けていた授業と根本的に何が違うのか。まず参加者の理解が深まること、楽しめることを重点に配慮されたプログラム。数々の下準備。参加者に意図が伝わるよう本気でいどまれている指導者の熱意や姿勢。本当に楽しかった。



参観で環境学習を見守るだけでなく、子どもたちといっしょに豆腐作りに参加された板橋区環境政策課のみなさん! 応援ありがとうございます!!

イチョウのおばあさんを助けよう

木の精キロリの
ふしぎないのり

板橋区立板橋保育園◎4・5歳児26人

11月29日◎イチョウの木がある園庭で

花・チョウ・ねこ・花火・ガラス・カブトムシ
風船を持っているママ・ライオン・花畑・花がたくさん！



病気で弱っているイチョウの木のおばあさんに、
みんなが作った生きものたちを見せると！？！
あら！ふしぎ、とつぜんイチョウはぐんぐん伸び
ていって大きな大木になったんだって！
みんなのおかげ。めでたいね！

イチョウの木が黄葉する時期が12日程度遅れた今秋（SOEの経験から）11月下旬でもまだ、イチョウの黄葉が残っているこの日。今年度限りで民営化し移転が予定されているという、56年の伝統ある板橋保育園に出向きました。心なしか、イチョウも元気がありません。4歳児と5歳児がペアとなり、園庭のイチョウの木を眺めなが

ら、みんなで、「木の精キロリのふしぎないのり」の紙芝居を聞きました。園庭のイチョウが、ちょっと元気がないようです。どうしたのかな。どうやら、病気になっているみたい……。

イチョウは2億5千年～1億年前あたりに白亜紀の恐竜がたくさんいた頃、ほかにはマツやスギなどしかない時代に、森の王者だったとのこと。その時から生き続けてきた特別、長生きの木。今は世界で1種類の木を人の手で増やしている。

キロリが教えてくれた不思議な方法、「みんなで、病気になって元気をなくしているイチョウのおばあさんを助けるために、「イチョウの葉っぱで生きものたちを作ろう」をやって、おばあさんに見せると、助けられるかもしれない(左下の写真)」上の写真の奥のイチョウの木は、よわっているイチョウの木に見えたんだ。みんなで、作品を見せたら(一番上の写真)、見る見るうちにイチョウの大木へ変身!!!



みんなでおばあさんの
イチョウを助けよう

《子どもたちのふりかえり》
❑ 生きもの作るのが楽しかった～
😊 葉っぱを貼るのが楽しかった
❖ 並べるのが楽しかった
📌 両面テープをはがすのが楽しかった
😓 作るのが大変だった
😊 葉を拾うのが楽しかった

《先生より》イチョウについての知識も教えてくださり、子どもたちにとって新しい発見や気づきにつながっていた。保育園のイチョウへの親しみにつながった。4、5歳合同で教え合う姿もあり、仲良く活動できた。

どんぐりコロコロお山は大さわぎ

板橋区立北野小
あいキッズ
1・2年生60人
12月1日◎教室で

放課後のあいキッズは、子どもたちの天国でした!!



この日までに、先生と子どもたちはいっしょに秋探しー落ち葉拾いに出かけました。みんな、とても意欲的で、楽しんで拾ったそうです。段ボール2つにいっぱいの色とりどりの落ち葉。赤や緑や茶色や紫、いろいろな色が混じったうつくしさは見とれるほどです。先生方の事前準備のすばらしさを痛感。

1番目 葉っぱジャンケン 全員、落ち葉を5枚ずつ持って、1枚ずつ、机の上に落ち葉を出し合い、ジャンケンで勝った

人から、好きな落ち葉を取って行きます。同じく5回対戦して、みんな、とても盛り上がりました。まとめは、自分の手にある中から好きな葉っぱを選び、好きなわけを同じ仲間に伝えていきます。**なぜこの葉がいいの?~**「いろいろな色が混じっている所」「ギザギザしている所」「黄色がきれい」「かわいいから」

2番目 どんぐりコマを作ろう

3番目 トトロ人形を作ろう



みんな、どんぐりのとがった頭を紙やすりでこするのを楽しんだ後、楊枝を反対側にさしてコマの芯棒にします。色塗りに時間をかけて、さっそく机上で回すと、良く回り大喜び。ほとんどが1~2年生ですが、学校の教室2つ分位の広さのホールで、びっしり机が配置され、隙間なくすわったの子どもたち。でも、良く話を聞き取り、作業に集中して素晴らしいです。

《先生方より》とても意欲的に取り組んだ。木の実や葉っぱを拾い集め、いっしょに秋探しをした所



から、この工作を楽しみにしていた。1・2年生がとても親しみをもって取り組んでいた。いつもと違うメンバーのグループができ、新しい関係ができた。葉っぱの色や形、どんぐり工作等を通して、身近な自然により親しみがわいたと思う。外遊びしたいといっていた子どもがいざ始まったら、最後までどんぐりコマ回しに参加していた。子どもたちのすなおな感性や姿が見られとても感動した。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp